

ながれもあへぬ もみじなりけり

第7期OB 菊盛 真衣

年を重ねれば少しずつ日常のイロイロが落ち着いて穏やかに生活できるのではないかと考えていたのですが、その気配が全く見えません。相変わらずバツバタのギリギリです。たちが悪いことにギリギリ病は加速する一方で、やるべきことを発酵するくらいまで寝かせて、最後に死ぬ気でダッシュして間に合わせるという心にも体にも悪い挑戦を今でも続けている次第です。

さて、この1年間は私的ビッグプロジェクトが大きく3つありました。第1は、担当するゼミで初めての産学連携プロジェクトです。皆さまは、高級輸入車ディーラーのヤナセが手掛ける輸入車レンタカー事業「ヤナセプレミアムカーレンタル (YPCR)」をご存知でしょうか？ 実は、このヤナセの輸入車レンタカーを普及するためのWebプロモーションを提案してほしいという依頼を大学経由でゼミにいただいたのです。依頼主は、レンタカー事業部の部長と、立命館大学経営学部OBの常務でした。正直な感想は、いきなりハードル高〜い！！先方には、顧客を招待したホテルイベントやメルセデスベンツの試乗体験など、たくさんの社員の方を巻き込んで歓待していただきました。私は無償でレンタカーを実際に利用させていただき、すっかり隠れファンになってしまいました。やっぱりベンツイイネ！そして、先方の社員を6名も招いて学生が成果報告会を行いました。前々日から学生と資料を夜通し直し始め、ギリのギリまで修正と発表の練習をしていましたが、嬉しいことに実際の運用を検討してもらうレベルには達したようです。

ゼミの活動についてももう少し触れると、去年は同期の白石幸太郎くんをゼミにお招きしました。学生時代、そして入社してからの軌跡を講演してくれました。また、私が担当する消費者行動論の講義には、9



2019年6月7期の白石幸太郎くんを招いたゼミ講演会（著者は前列中央）

期生の清水鈴さんをお招きして広告の興味深い事例について授業をしてもらいました。こうちゃん、りんちゃん、どうもありがとう！皆さまもご関心あれば、どうぞ本学にお越しくださいませ！

第2のプロジェクトは、博士論文出版プロジェクトです。慶應の博士課程を修了して早3年半が経とうとしています。日本の研究者の世界では、博論を出版するというのが一人前と認められる条件の一つ（という私の認識）ですので、面倒ですがやらねばならぬということで取り組みました。重い腰を上げ、というか出版社の方のお声がけでようやく始まったわけです。取り組む前もその最中も、とにかく終始気持ちが奮い立たず、入稿と度重なる校正のやり取りは、私のやりたくないことリストの上位に常に入っていました。それでも締め切りに急かされ、ギリギリで乗り越え…というのを続けていたら、なんとか来る2月に出版に至れるということです。

最後に、第3のビッグプロジェクトは、結婚式です。人生のビッグイベントと言われることもあります、その名のと通りの印象で

した。会場、日取りといった重要にして初歩的なことから、披露宴でのテーブルクロス結び方やら、細かいことまで決めることがとにかく多い！細かい意思決定の連続に加えて、招待状にひと手間加える工夫をしたり、会場装飾の折り鶴を折ったり、動画を作ったりと実労働もとにかく多い！折角忙しい中来てくださる大切なゲストの方に楽しかったと思ってもらえるように、前日のギリギリまででんてこ舞いでした。その甲斐あってか、披露宴は司会の声が聞こえないほどの賑やかな会になりまして、涙の一つも流すことなく楽しい、楽しい日となりました。私はその雰囲気に応えてテンションが上がり続け、樽酒を飲みすぎてしまい、その日自分の足で会場を出ることができませんでした。こんな醜態をさらすのは人生で最後にすることを誓ったので、大変メモリアルな一夜になりました。準備から含めてあんな大変な思いを二度



千倉書房より近刊です！



小野先生ご家族と、先輩・同期・後輩という幅広い代のたくさんの小野ゼミ生にお祝いしてもらいました！

としたいくないので、結婚式はもうやりたくないです！（苦笑）言い忘れていましたが、結婚したのは10期生の石井くんです。何から何まで小野ゼミのおかげさまで。

さて、今年の百人一首は「山川（やまがわ）に風のかけたるしがらみは 流れもあへぬ紅葉なりけり」です。風が吹いて、美しい山の中の川に紅葉がかたまっているところがある、まるで風が作った堰止め用の柵（しがらみ）のようだなあという、秋の美しさが映える歌です。自分の誕生日は9月、石井くん



2019年12月 ゼミ生と一緒にリレーマラソン大会に出場！足を引っ張ったのも思い出！（賞状を持たせてもらっているのが著者）



2019年末 菊盛ゼミ第1回OB会を開催しました！賑やかにやらせてもらってます！（著者は前列右から2番目）

の誕生日は10月、結婚式は11月と、秋という季節と自分との繋がりを深く感じる最近です。そこで、その秋の美しさを歌ったこの歌を選びました。結婚式というイベントは不思議なもので、自分のこれまでの振り返る機会でもありました。川の中にかたまりを成す紅葉の一枚一枚は、人生で降り積もっていく楽しい思い出や苦い思い出の一つ一つと重なります。過去という大小さまざまな経験のかたまりを総じて幸せだったと思うのは、堰き止められた紅葉のかたまりを美しいと感じることに似ているような気がするのです。ドタバタのギリギリで乗り越える数々の出来事も、遠い未来から見れば自分の人生に彩りを与えてくれたと思えるようになることを願うばかりです。